

読書リテラシーとその指導

練馬区立開進第二中学校 深澤 眞知子

一 はじめに

読書指導は今まで一般的に「本を読むこと」そのものを目的とした指導や図書館作りがなされてきたし、私自身も長くそのような取り組みを実践してきた。しかし指導要領の改定に伴い、授業の中で「読書」を扱うことの意味を考えたとき、「読書を通してつきたい力」を明確に目標に置き、系統的に指導していく必要があるという結論に到達した。つまり読書のスキルを身につけさせるといふ発想である。それを読書リテラシーと名付け、その指導と評価の研究を行ったのが、第三八回全日本中学校国語教育研究協議会第五分科会での発表である。

二 読書リテラシーとは

新学習指導要領「読むこと」の指導事項「読書と情報活用」の内容から、読書リテラシーを次のように整理した。

- 読書リテラシー
- A 目的をもって本を選び、情報を取り出す力
 - B 本を読み、説明したり、感想を発表したりする力
 - C 本を読み視点をもって批評したりする力
 - D 複数の本を読み、内容と比較する力
 - E 複数の本を読んで自分の考えをもち、意見を交わし合う力

A B C D Eは大まかに学年進行に対応しており、それぞれどんな授業をしたらよいかの提案を行った。

三 読書リテラシーに沿った

系統的な授業

いくつかの例を紹介する。

読書リテラシーA

・一年生「図書館の使い方」

学校図書館や公共図書館の使い方について知る。

読書リテラシーB

・一年生「広がる読書」
テーマを決めて本を選び、引用等を入れて紹介する。

読書リテラシーC

・一年生「〇〇中学校推薦図書」作り
推薦図書を選び、キャッチコピーを入れて紹介文を書き、冊子をつくる。

読書リテラシーD

・二年生「批評的な読み」
人物像を読み取り、自分の意見をもつ。

読書リテラシーE

・二年生「比べ読み」
複数の本を読み比べ、考えを深める。

読書リテラシーE

・三年生「読書交流会」
一冊の本からテーマを設定して関連した本を読み、読書交流会を開く。

最終的にはリテラシーのEにある読書交流会のような形式で、情報の比較や批評などを含んで、互いに意見を交換し合い、さらに考えを深められる生徒の育成を目指している。

四 「読書交流会」の実践

●単元名 「高瀬舟」

↳プラス一冊で深める読書交流会

リテラシーのEは、一年次から積み重ねてきたリテラシーの集大成としてさまざまな要素を含んでいる。逆にいえば積み重ねなしではこの授業は難しい。「系統的に」という所である。しかし、積み重ねていけば確実に生徒達は変容していく。その展開を紹介する。

(一) 指導上の工夫

・「高瀬舟」を読み、疑問を広げて他の本を読み、そこから読書交流会につながるために、最初の読みをしっかりさせることに留意する。

・話し合いの中心が比較する作品に流れないように、必ず「高瀬舟」に戻るよう確認しておく。

・読書交流会において話し合いが活発に行えるように、これまでの話し合い活動をもとに、事前に司会者・記録者を決めておき、すぐに話し合いに入れるようにする。

(二) 単元の評価

B評価の基盤

・「高瀬舟」を読み、「足るを知る」という喜助の生き方や「安楽死」の問題を読み取り、それに対する自分の考えをもつ。

・「高瀬舟」から疑問を広げて読書のテーマを見つけ、それに関する本を意欲的に読み、読書の幅を広げる。

・読書交流会を通して自分の考えを伝えたり、他人の考えを理解したりして再度「高瀬舟」の主題に迫り、読みを深める。

(三) 指導の実際

第一時～三時 「高瀬舟」を読み、事件の概要と主人公の考えなどを理解させる。

第四時と家庭学習 読み取ったことをもとに読書テーマを考えさせる。テーマに沿った本を互いに出し合い、クラスで一〇冊程度に絞り、自宅学習として各自が読む。(冊数自由)

五・六・七時 選んだ本ごとにグループをつくり、読書交流会をする。「高瀬舟」プラス一冊の本を比較しながら自分の考えを発表していく。その話し合いの結果をグループごとに発表し、さらに考えを深める。

五 おわりに

この読書の授業は単発ではできないし、一年生からの積み重ねで目的をもって育ててい

かなくてはならない。その意味では授業者にとって簡単ではない授業である。しかし、読書リテラシーを系統的に指導していくことで、「読むこと」のみならず「話すこと・聞くこと」も含めた国語科で育成する力の三年間の集大成が見られる。これらの手応えを通して、目標をもって読書指導をすることの効果を感じている。

※「高瀬舟」の読書交流会のために選んだ本
『トットちゃん』トットちゃんたち

『いのちのメッセージ』 黒柳徹子

『救命センター当直日誌』 日野原重明

『安楽死と尊厳死―医療の中の生と死』 浜辺祐一

『病者は語れず』「東海大安楽死事件」 保阪正康

『1リットルの涙』 永井 明

『いのちのハードル』 木藤亜也

『栖山節考』 木藤潮香

『塩狩峠』 深沢七郎

『最後の一片』 三浦綾子

『絵本』 O・ヘンリー

松下竜一 佐藤雅彦編

ふかさわ・まちこ 練馬区立開進第一中学校校長。第

三八回全中国研東京大会第五分科会責任者・練馬区国

語グループ研究会所属。

語グループ研究会所属。